

様式第2号の1-②【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の1-①を用いること。

学校名	札幌青葉鍼灸柔整専門学校
設置者名	学校法人札幌青葉学園 理事長 岸野 雅方

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

課程名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数又は授業時数	省令で定める基準単位数又は授業時数	配置困難
医療専門課程	鍼灸学科昼間部	夜・通信	73単位	9単位	
	鍼灸学科夜間部	夜・通信	73単位	6単位	
	柔道整復学科昼間部	夜・通信	62単位	9単位	
(備考) 鍼灸学科夜間部は令和2年度より募集停止のため従前の教育課程に基づいて記載					

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

ホームページ https://www.sapporo-aoba.ac.jp
--

3. 要件を満たすことが困難である学科

学科名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	札幌青葉鍼灸柔整専門学校
設置者名	学校法人札幌青葉学園 理事長 岸野 雅方

1. 理事（役員）名簿の公表方法

ホームページ	https://www.sapporo-aoba.ac.jp
--------	---

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	学校法人福寿会 理事	2021.4 ~ 2023.3	学生募集・広報
非常勤	学校法人平成医療学園 理事	2021.4 ~ 2023.3	学校運営
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	札幌青葉鍼灸柔整専門学校
設置者名	学校法人札幌青葉学園 理事長 岸野 雅方

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。	
(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)	
<p>※毎年度シラバスを作成し、年度当初に掲示するとともに、ホームページからダウンロードする形式で学生に配布している。</p> <p>☆シラバスの内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 授業科目名・対象学年・開講期・単位数・時間数・担当教員名 ・ 授業科目概要・目的・学習目標・成績評価方法・教材・留意事項 ・ 授業計画 (1回の授業ごとの内容) <p>☆シラバスの作成プロセス</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 授業担当教員ごとにシラバスの作成を依頼 ・ 教務で取りまとめ、点検後に印刷・製本・ホームページへ ・ 年度当初に学生に配布 	
授業計画書の公表方法	https://sapporo-aoba.ac.jp/

2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。

(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)

※以下の指標を基に、すべての授業科目について適切に評価している。

※評価方法等については学生便覧に明示するとともに、年度当初に実施するオリエンテーションで詳しく説明している。

☆出席について

- ・講義、実習すべて 2/3 以上の出席が必要
- ・遅刻：授業開始後 30 分以内に入室した場合は遅刻（その後は欠席）
- ・早退：授業終了前 30 分以内に退室した場合は早退（その前は欠席）
- ・遅刻・早退は 3 回で欠席 1 回とする

☆講義および実習における合格基準

- ・筆記試験の成績、出席状況、受講態度等を総合的に評価する。
- ・五段階評価：「秀」（90 点以上）、「優」（80 点以上 89 点以下）、「良」（70 点以上 79 点以下）、「可」（60 点以上 69 点以下）および「不可」（59 点以下）
- ・「秀」、「優」、「良」及び「可」を合格とし、「不可」を不合格とする。

☆追試験

- ・やむを得ない理由で定期試験等を受験できなかったと認定された場合には、追試験を受験することができる。
- ・追試験の満点は 100 点とする。

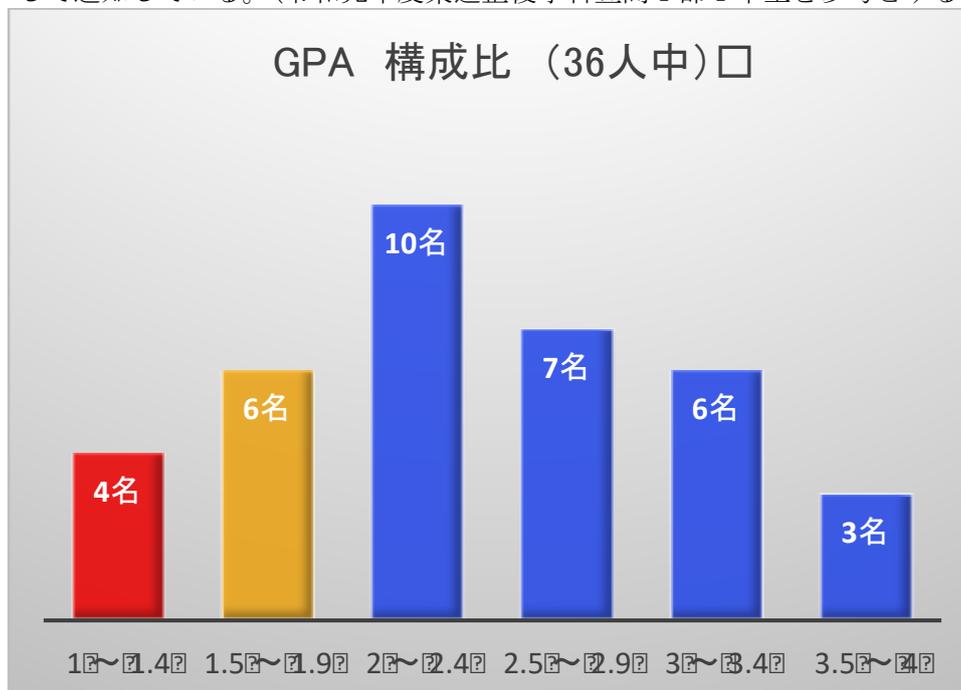
☆再試験

- ・定期試験に不合格であった者、あるいはやむを得ないとは認められない理由で定期試験を受験しなかった者について行う試験
- ・再試験の満点は 60 点とする。

3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。

(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)

- ☆ 授業を履修した者に対し、試験等の成績、出席状況、授業の受講態度、その他を総合的に判断して成績を評価する。
- ☆ GPAについては、秀を4.0、優を3.0、良を2.0、可を1.0、不可を0とし、評価を受けた授業科目のGPにその授業科目の単位数を乗じ、その合計を、履修届を出した履修科目の単位数の合計で除して、Grade Point Average (GPA) を算出する。
- ☆ 成績評価の通知
 - ・学生本人に、年度末に当該年度における成績及び出席状況について評価表を作成して通知している。(令和元年度柔道整復学科昼間1部1年生を参考とする)



- ☆ 学生指導への活用
 - ・半期ごとに GPA を算出し、GPA が 2.5 未満の学生に対してはクラス担任による個別面談を、また 2.0 未満の学生に対してはクラス担任と学科長による個別面談、個別指導を実施している。

客観的な指標の
算出方法の公表方法

<https://www.sapporo-aoba.ac.jp/>

4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。	
(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)	
<p>※ 本校の3年間の課程において開講されるすべての授業科目を履修し、すべての試験に合格して、すべての単位を修得した者について卒業を認定する。</p> <p>※ 定められた納付金を卒業認定前までに完納していること。</p> <p>※ 以下の各分野における授業科目をすべて履修し、単位を修得した者について卒業を認める。</p> <p>☆鍼灸学科（昼間部・夜間部）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基礎分野 14単位（210時間） ・専門基礎分野 29単位（555時間） ・専門分野 70単位（1,905時間） 計 113単位（2,670時間） <p>☆柔道整復学科（昼間部）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基礎分野 14単位（210時間） ・専門基礎分野 44単位（705時間） ・専門分野 54単位（1,845時間） 計 112単位（2,760時間） 	
卒業の認定に関する 方針の公表方法	https://www.sapporo-aoba.ac.jp/

様式第2号の4-②【(4)財務・経営情報の公表（専門学校）】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の4-①を用いること。

学校名	札幌青葉鍼灸柔整専門学校
設置者名	学校法人札幌青葉学園 理事長 岸野 雅方

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	https://www.sappro-aoba.ac.jp/
収支計算書又は損益計算書	https://www.sappro-aoba.ac.jp/
財産目録	https://www.sappro-aoba.ac.jp/
事業報告書	https://www.sappro-aoba.ac.jp/
監事による監査報告（書）	https://www.sappro-aoba.ac.jp/

2. 教育活動に係る情報

①学科等の情報

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
医療		医療専門課程	鍼灸学科 昼間部	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
3年	昼間部	2670 単位時間 / 113 単位	1815 単 位時間 /94 単位	0 単位時 間/単位	180 単位 時間/4 単位	0 単位時 間/単位	675 単位 時間/15 単位
			2670 単位時間 / 113 単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
180人		92人	0人	8人	9人	17人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
<p>（概要）</p> <p>【様式第2号の3より再掲】</p> <p>※毎年度シラバスを作成し、年度当初に掲示するとともに、ホームページからダウンロードする形式で学生に配布している。</p> <p>☆シラバスの内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業科目名・対象学年・開講期・単位数・時間数・担当教員名 ・授業科目概要・目的・学習目標・成績評価方法・教材・留意事項 ・授業計画（1回の授業ごとの内容） <p>☆シラバスの作成プロセス</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業担当教員ごとにシラバスの作成を依頼 ・教務で取りまとめ、点検後に印刷・製本・ホームページへ ・年度当初に学生に配布

<p>成績評価の基準・方法</p> <p>(概要)</p> <p>【様式第2号の3より再掲】</p> <p>※以下の指標を基に、すべての授業科目について適切に評価している。</p> <p>※評価方法等については学生便覧に明示するとともに、年度当初に実施するオリエンテーションで詳しく説明している。</p> <p>☆出席について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義、実習すべて2/3以上の出席が必要 ・遅刻：授業開始後30分以内に入室した場合は遅刻（その後は欠席） ・早退：授業終了前30分以内に退室した場合は早退（その前は欠席） ・遅刻・早退は3回で欠席1回とする <p>☆講義および実習における合格基準</p> <ul style="list-style-type: none"> ・筆記試験の成績、出席状況、受講態度等を総合的に評価する。 ・五段階評価：「秀」（90点以上）、「優」（80点以上89点以下）、「良」（70点以上79点以下）、「可」（60点以上69点以下）および「不可」（59点以下） ・「秀」、「優」、「良」及び「可」を合格とし、「不可」を不合格とする。 <p>☆追試験</p> <ul style="list-style-type: none"> ・やむを得ない理由で定期試験等を受験できなかったと認定された場合には、追試験を受験することができる。 ・追試験の満点は100点とする。 <p>☆再試験</p> <ul style="list-style-type: none"> ・定期試験に不合格であった者、あるいはやむを得ないとは認められない理由で定期試験を受験しなかった者について行う試験 ・再試験の満点は60点とする。
<p>卒業・進級の認定基準</p> <p>(概要)</p> <p>【様式第2号の3より再掲】</p> <p>☆ 授業を履修した者に対し、試験等の成績、出席状況、授業の受講態度、その他を総合的に判断して成績を評価する。</p> <p>☆ GPAについては、秀を4.0、優を3.0、良を2.0、可を1.0、不可を0とし、評価を受けた授業科目のGPにその授業科目の単位数を乗じ、その合計を、履修届を出した履修科目の単位数の合計で除して、Grade Point Average (GPA) を算出する。</p> <p>☆ 成績評価の通知</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学生本人に、年度末に当該年度における成績及び主席状況について評価表を作成して通知している。（平成30年度鍼灸学科昼間部1年生を参考とする） <p>☆ 学生指導への活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・半期ごとにGPAを算出し、GPAが2.5未満の学生に対してはクラス担任による個別面談を、また2.0未満の学生に対してはクラス担任と学科長による個別面談、個別指導を実施している。 <p>☆ 本校の3年間の課程において開講されるすべての授業科目を履修し、すべての試験</p>

<p>に合格して、すべての単位を修得した者について卒業を認定する。</p> <p>☆ 以下の各分野における授業科目をすべて履修し、単位を修得した者について卒業を認める。</p> <p>☆ 鍼灸学科（昼間部・夜間部）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基礎分野 14 単位（210 時間） ・専門基礎分野 29 単位（555 時間） ・専門分野 70 単位（1,905 時間） 計 113 単位（2,670 時間）
<p>学修支援等</p> <p>（概要）</p> <p>クラス担任を中心に、学生の学業不振や生活上の悩み等に対応し、適宜、保証人との連絡をとる。</p>

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
12 人 (100%)	0 人 (0%)	12 人 (100%)	0 人 (0%)
<p>（主な就職、業界等）</p> <p>鍼灸治療院への就職・開業</p>			
<p>（就職指導内容）</p> <p>各学科に就職担当教員を配置し、求人内容と学生の希望にミスマッチがなくなるよう配慮した就職指導をおこなっている。</p>			
<p>（主な学修成果（資格・検定等））</p> <p>はり師・きゅう師国家試験12名受験中12名合格（100%）</p>			
<p>（備考）（任意記載事項）</p>			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
67 人	5 人	7.5%
<p>（中途退学の主な理由）</p> <p>進路変更、病気療養、仕事の都合により等</p>		
<p>（中退防止・中退者支援のための取組）</p> <p>入学後の面談、学業不振者には個別指導等</p>		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
医療		医療専門課程	鍼灸学科 夜間部	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
3年	夜間部	2670 単位時間 / 113 単位	480 単位 時間 / 22 単位	0 単位時 間 / 単位	90 単位 時間 / 2 単位	0 単位時 間 / 単位	270 単位 時間 / 6 単位
			840 単位時間 / 30 単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
30人		17人	0人	8人	3人	11人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）						
<p>（概要）</p> <p>【様式第2号の3より再掲】</p> <p>※毎年度シラバスを作成し、年度当初に掲示するとともに、ホームページからダウンロードする形式で学生に配布している。</p> <p>☆シラバスの内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業科目名・対象学年・開講期・単位数・時間数・担当教員名 ・授業科目概要・目的・学習目標・成績評価方法・教材・留意事項 ・授業計画（1回の授業ごとの内容） <p>☆シラバスの作成プロセス</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業担当教員ごとにシラバスの作成を依頼 ・教務で取りまとめ、点検後に印刷・製本・ホームページへ ・年度当初に学生に配布 						
成績評価の基準・方法						
<p>（概要）</p> <p>【様式第2号の3より再掲】</p> <p>※以下の指標を基に、すべての授業科目について適切に評価している。</p> <p>※評価方法等については学生便覧に明示するとともに、年度当初に実施するオリエンテーションで詳しく説明している。</p> <p>☆出席について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義、実習すべて 2/3 以上の出席が必要 ・遅刻：授業開始後 30 分以内に入室した場合は遅刻（その後は欠席） ・早退：授業終了前 30 分以内に退室した場合は早退（その前は欠席） ・遅刻・早退は 3 回で欠席 1 回とする <p>☆講義および実習における合格基準</p> <ul style="list-style-type: none"> ・筆記試験の成績、出席状況、受講態度等を総合的に評価する。 ・五段階評価：「秀」（90 点以上）、「優」（80 点以上 89 点以下）、「良」（70 点以上 79 点以下）、「可」（60 点以上 69 点以下）および「不可」（59 点以下） ・「秀」、「優」、「良」及び「可」を合格とし、「不可」を不合格とする。 						

☆追試験

- ・やむを得ない理由で定期試験等を受験できなかったと認定された場合には、追試験を受験することができる。
- ・追試験の満点は100点とする。

☆再試験

- ・定期試験に不合格であった者、あるいはやむを得ないとは認められない理由で定期試験を受験しなかった者について行う試験
- ・再試験の満点は60点とする。

卒業・進級の認定基準

(概要)

【様式第2号の3より再掲】

- ☆ 授業を履修した者に対し、試験等の成績、出席状況、授業の受講態度、その他を総合的に判断して成績を評価する。
- ☆ GPAについては、秀を4.0、優を3.0、良を2.0、可を1.0、不可を0とし、評価を受けた授業科目のGPにその授業科目の単位数を乗じ、その合計を、履修届を出した履修科目の単位数の合計で除して、Grade Point Average (GPA) を算出する。
- ☆ 成績評価の通知
 - ・学生本人に、年度末に当該年度における成績及び主席状況について評価表を作成して通知している。(平成30年度鍼灸学科昼間部1年生を参考とする)
- ☆ 学生指導への活用
 - ・半期ごとにGPAを算出し、GPAが2.5未満の学生に対してはクラス担任による個別面談を、また2.0未満の学生に対してはクラス担任と学科長による個別面談、個別指導を実施している。
- ☆ 本校の3年間の課程において開講されるすべての授業科目を履修し、すべての試験に合格して、すべての単位を修得した者について卒業を認定する。
- ☆ 以下の各分野における授業科目をすべて履修し、単位を修得した者について卒業を認める。

☆鍼灸学科(昼間部・夜間部)

- | | |
|---------|----------------|
| ・基礎分野 | 14単位(210時間) |
| ・専門基礎分野 | 29単位(555時間) |
| ・専門分野 | 70単位(1,905時間) |
| 計 | 113単位(2,670時間) |

学修支援等

(概要)

クラス担任を中心に、学生の学業不振や生活上の悩み等に対応し、適宜、保証人との連絡をとる。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
17人 (100%)	1人 (5.9%)	13人 (76.5%)	3人 (17.6%)
(主な就職、業界等) 鍼灸治療院等への就職・開業			
(就職指導内容) 各学科に就職担当教員を配置し、求人内容と学生の希望にミスマッチがなくなるよう配慮した就職指導をおこなっている。			
(主な学修成果（資格・検定等）) はり師・きゅう師国家試験17名受験中17名合格（100%）			
(備考)（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
40人	3人	7.5%
(中途退学の主な理由) 仕事の都合、病気療養、修学意思喪失等		
(中退防止・中退者支援のための取組) 入学後の面談、学業不振者には個別指導等		

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士			
医療	医療専門課程	柔道整復学科 昼間部	○				
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
3年	昼夜	2760 単位時間／112 単位	1815 単 位時間 /91 単 位	0 単位 時間/0 単位	180 単位 時間/4 単位	0 単位時 間/0 単 位	765 単位 時間/17 単位
	昼間部		2760 単位時間／112 単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
270人		152人	0人	10人	15人	25人	

<p>カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）</p> <p>（概要）</p> <p>【様式第2号の3より再掲】</p> <p>※毎年度シラバスを作成し、年度当初に掲示するとともに、ホームページからダウンロードする形式で学生に配布している。</p> <p>☆シラバスの内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業科目名・対象学年・開講期・単位数・時間数・担当教員名 ・授業科目概要・目的・学習目標・成績評価方法・教材・留意事項 ・授業計画（1回の授業ごとの内容） <p>☆シラバスの作成プロセス</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業担当教員ごとにシラバスの作成を依頼 ・教務で取りまとめ、点検後に印刷・製本・ホームページへ ・年度当初に学生に配布
<p>成績評価の基準・方法</p> <p>（概要）</p> <p>【様式第2号の3より再掲】</p> <p>※以下の指標を基に、すべての授業科目について適切に評価している。</p> <p>※評価方法等については学生便覧に明示するとともに、年度当初に実施するオリエンテーションで詳しく説明している。</p> <p>☆出席について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義、実習すべて2/3以上の出席が必要 ・遅刻：授業開始後30分以内に入室した場合は遅刻（その後は欠席） ・早退：授業終了前30分以内に退室した場合は早退（その前は欠席） ・遅刻・早退は3回で欠席1回とする <p>☆講義および実習における合格基準</p> <ul style="list-style-type: none"> ・筆記試験の成績、出席状況、受講態度等を総合的に評価する。 ・五段階評価：「秀」（90点以上）、「優」（80点以上89点以下）、「良」（70点以上79点以下）、「可」（60点以上69点以下）および「不可」（59点以下） ・「秀」、「優」、「良」及び「可」を合格とし、「不可」を不合格とする。 <p>☆追試験</p> <ul style="list-style-type: none"> ・やむを得ない理由で定期試験等を受験できなかったと認定された場合には、追試験を受験することができる。 ・追試験の満点は100点とする。 <p>☆再試験</p> <ul style="list-style-type: none"> ・定期試験に不合格であった者、あるいはやむを得ないとは認められない理由で定期試験を受験しなかった者について行う試験 ・再試験の満点は60点とする。

<p>卒業・進級の認定基準</p> <p>(概要)</p> <p>【様式第2号の3より再掲】</p> <p>☆ 授業を履修した者に対し、試験等の成績、出席状況、授業の受講態度、その他を総合的に判断して成績を評価する。</p> <p>☆ GPAについては、秀を4.0、優を3.0、良を2.0、可を1.0、不可を0とし、評価を受けた授業科目のGPにその授業科目の単位数を乗じ、その合計を、履修届を出した履修科目の単位数の合計で除して、Grade Point Average (GPA) を算出する。</p> <p>☆ 成績評価の通知</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学生本人に、年度末に当該年度における成績及び主席状況について評価表を作成して通知している。(平成30年度鍼灸学科昼間部1年生を参考とする) <p>☆ 学生指導への活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・半期ごとにGPAを算出し、GPAが2.5未満の学生に対してはクラス担任による個別面談を、また2.0未満の学生に対してはクラス担任と学科長による個別面談、個別指導を実施している。 <p>☆ 本校の3年間の課程において開講されるすべての授業科目を履修し、すべての試験に合格して、すべての単位を修得した者について卒業を認定する。</p> <p>☆ 以下の各分野における授業科目をすべて履修し、単位を修得した者について卒業を認める。</p> <p>☆ 柔道整復学科(昼間部)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基礎分野 14単位(210時間) ・専門基礎分野 44単位(705時間) ・専門分野 54単位(1,845時間) 計 112単位(2,760時間)
<p>学修支援等</p> <p>(概要)</p> <p>クラス担任を中心に、学生の学業不振や生活上の悩み等に対応し、適宜、保証人との連絡をとる。</p>

卒業生数、進学者数、就職者数(直近の年度の状況を記載)			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
24人 (100%)	4人 (16.7%)	12人 (50.0%)	8人 (33.3%)
(主な就職、業界等) 整骨院等への就職			
(就職指導内容) 各学科に就職担当教員を配置し、求人内容と学生の希望にミスマッチがなくなるよう配慮した就職指導をおこなっている。			

(主な学修成果(資格・検定等)) 柔道整復師国家試験24名受験中20名合格(83.3%)
(備考)(任意記載事項)

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
147人	14人	9.5%
(中途退学の主な理由) 進路変更、就職、仕事に専念するため等		
(中退防止・中退者支援のための取組) 入学後の面談、学業不振者には個別指導等		

②学校単位の情報

a) 「生徒納付金」等

学科名	入学金	授業料(年間)	その他	備考(任意記載事項)
鍼灸学科 柔道整復 学科(昼 間部)	250,000円	720,000円	520,000円	「その他」内訳 実習費(年額):220,000円 施設管理費(年額):300,000円 休学中の在籍料(月額):7,000円
	円	円	円	
	円	円	円	
	円	円	円	
修学支援(任意記載事項)				
※家計困窮者に対する奨学金制度 ※成績優秀者に対する奨学金制度 ※ひとり親家庭(親又は子)の入学者に対する奨学金制度 ※特待生に対する奨学金制度				

b) 学校評価

自己評価結果の公表方法 (ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法)
ホームページ https://www.sappro-aoba.ac.jp/
学校関係者評価の基本方針(実施方法・体制)
学校関係者評価の主な項目は、教育理念・目的・育成人材、学校運営、教育活動、学修成果、学生支援、教育環境、学生の募集と受入れ、財務、法令等の遵守、社会貢献・地域貢献などに関わる事項であり、評価委員会については、定員を2名以上とし、業界

全体の動向や地域社会に業界の役割に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の職員、専門分野に関する学会や学術機関等の有識者、実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員および卒業生等から構成されている。

学校関係者委員会は毎年5月中に開催され、評価結果は、校長、学科長、事務長で組織される校務運営会議を経て、教職員会議および各学科会議等にて改善点および教育活動等について検討および実施等に活用している。

学校関係者評価の委員		
所属	任期	種別
水上弘祥（北海道鍼灸柔整マッサージ師会会長）	令和3年4月1日～ 令和4年3月31日	企業等委員
吉田真人（鍼灸・整骨院健壯院院長）	令和3年4月1日～ 令和4年3月31日	卒業生
関克彦（関鍼灸治療院院長）	令和3年4月1日～ 令和4年3月31日	卒業生 （同窓会長）
渡辺潤（岩見沢メディカル整骨院）	令和3年4月1日～ 令和4年3月31日	卒業生
加藤善弘（ノース治療院院長）	令和3年4月1日～ 令和4年3月31日	卒業生
学校関係者評価結果の公表方法		
（ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法）		
ホームページ https://www.sapro-aoba.ac.jp/		
第三者による学校評価（任意記載事項）		

c) 当該学校に係る情報

（ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法）
ホームページ https://www.sapro-aoba.ac.jp/

(別紙)

※この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「－」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校名	札幌青葉鍼灸柔整専門学校
設置者名	学校法人札幌青葉学園 理事長 岸野 雅方

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者（家計急変による者を除く）		26人	24人	26人
内 訳	第Ⅰ区分	15人	14人	
	第Ⅱ区分	一人	一人	
	第Ⅲ区分	一人	一人	
家計急変による支援対象者（年間）				0人
合計（年間）				26人
(備考) 休学により認定の効力の停止となった者：1名（11/1～休学） 自主退学により支援が終了した者：1名（1/31退学）				

※本表において、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第1号、第2号、第3号に掲げる区分をいう。

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等		
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	一人	人	人
修得単位数が標準単位数の5割以下 (単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間が標準時間数の5割以下)	0人	人	人
出席率が5割以下その他学修意欲が著しく低い状況	0人	人	人
「警告」の区分に連続して該当	0人	人	人
計	一人	人	人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の(2)のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であって、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遡って認定の効力を失った者の数

右以外の大学等		短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）			
年間	0人	前半期	人	後半期	人

(3) 退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	0人
3月以上の停学	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

停学（3月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のもの に限り、認定専攻科を含む。）、 高等専門学校（認定専攻科を含 む。）及び専門学校（修業年限が 2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が標準単位数 の6割以下 (単位制によらない専門学校に あつては、履修科目の単位時間 数が標準時間数の6割以下)	0人	人	人
GPA等が下位4分の1	一人	人	人
出席率が8割以下その他 学修意欲が低い状況	0人	人	人
計	一人	人	人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

備考 この用紙の大きさは、日本産業規格A4とする。